

# ちよつといし話

## ～ 故郷詣で ～

一般的には人間として誕生した処を離れた場所から見て故郷と称しています。お盆や年の瀬に帰省ラッシュと言って大きくmassmediaにとりあげられます。多くの人は年を重ねるにしたがって、より強く故郷が思いだされる様です。それでは我々が亡くなった後、アニミズムの中に生活している我々が先祖の故郷として、何処を遺蹟ゆいせきとすれば良いのでしょうか？それは仏壇のある各家であり、先祖の眠る墓所でありましょう。忘れてしまいがちなのは全ての先祖を我が子として、極楽浄土にて見守ってみえる阿弥陀様のこです。極楽を会社に置き換えて考へてみましょう。社長は阿弥陀様と言う事になり、先祖のみえる仏壇やお墓は会社のセクションと言う事になります。各セクションの機能が充実に成長するのです。先祖の方々が故郷として訪れる所、それは亡くなられた先祖が信仰してみえたお寺です。阿弥陀様がおわします所、阿弥陀様に会える所、阿弥陀様を拝める所、即ち菩提寺こそが極楽世界であり会社と言う事になります。、即ち、先祖の故郷なのです。それ故に各家の仏壇や墓所での御供養が充分でなく、先祖の故郷であるお寺に詣でる事も忘れがちになれば会社と言うお寺はつぶれてしまうのです。そして故郷をなくした先祖の魂は浮幽霊となつて此の世をさまよい歩くのです。昨今、テレビで悪霊に取り付かれた人の除霊番組を多々放映しますが、行き場の無い先祖が如何に多いかお分かりだと思ひます。菩提寺に答礼する事も無く、阿弥陀様の差し出された御手をつかむ事も無く、唯、後悔の涙にくれる事になつてしまつた霊。先祖の霊が災いを起こす悪霊にならない様に気を付けましょう。子は親を親は先祖を敬い、各人が生活の根底に信仰心を持つ福德円満なる家庭を築いて頂きたいものです。御先祖様が幸せでなくて、此の世の幸せがくる事はありませぬ。忙しくて月に1, 2回はお墓に参り、お寺に詣で故郷の味わいを深め、我々の行く道を佛道と定め、今日以後、正しい見解、正しい思い、正しい言葉、正しい行いをして、正しい生活をしましよ。さすれば極楽への道遠からず。楽、楽。

善入院油掛地藏尊